令和５年３月１日

新化 Let's Fight Together！ 進路通信第１２号

卒業式です。この通信も今年度最終号です。

３年生のみなさんは入学時からコロナに翻弄された特別な学年でした。適応力と引き換えに失ったものも多い高校生活だったかもしれません。やってみて失敗した経験は次の成功につなげられますが、挑戦できなかった後悔は残っているかもしれません。ですが若さと可能性はみなさんだけの大きな武器です。「やり残し」は次へのモチベーションにしてこれからの人生で取り返しましょう。

進学先がこれから決まる人も多いです。最後の戦いがこれからある人もいます。ピンチはチャンス。ここで頑張れる人こそが栄冠をつかむ権利を得ます。口で言うほど簡単ではありませんが、これは真実です。武義高進路指導部が掲げる「納得のいく進路選択」のためにも、最後までやり遂げてください。最後まで、です。必ず、必ず得るものがあります。

就職先、進学先が決まっている人、３月３１日まで、みなさんは武義高校に籍があります。軽はずみなことに流されてしまわないようにしてください。自分の高校生活を台無しにすることがないように。些細な（という思い込みの）過ちで人生を棒に振る危険すらあるのです。具体例を挙げるまでもありません。成人として、社会人として、自覚ある行動をしてください。もう我々はみなさんを守ることが出来ません。

１、２年生のみなさん、授業日の少ない春の期間がどれほど大切であるかについては前号で書きました。学年末考査のあと、浮かれてはいませんか。春を迎えてウキウキする気持ちを否定するわけではありませんが、みなさんにも自覚を持った行動をお願いしたいです。勉強、部活動、個人的な探究に加えて、オープンキャンパスをはじめとする進路研究にも時間を使いましょう。

「新生活」「新学期」が待ち遠しいと思えるような３月にしましょう。

《当面の進路関係行事》＊変更されることがあります＊

３／　１（水）卒業式
　　２（木）～７（火）自宅学習期間
　　８（水）～１０（金）午前考査返却、午後追試・補充
　　＊９（木）スタディーサポート
　１３（月）～２３（木）自宅学習期間
　２４（金）終業式、離任式
４／１０（月）始業式、入学式

《雑感》

岐阜スゥープスの試合を見に行った。Ｂ３リーグではあるが、初めて見るプロのバスケットボールのゲームは見応えがあった。会場はわかくさプラザにあるアテナ工業アリーナ。きれいな建物で雰囲気もよく楽しめた。行ってよかった。念願が叶った。

初めてなので２階の自由席を買った。会場に早く着いたので席は選び放題だった。それで困った。最前列の前には透明なアクリル板が腰の高さまであり、板を通してしかコートは見えない。少し下がって上段の席になると今度は銀色のバーの手すりがコートを横断する高さで邪魔をする。それらを視界からはずしてコートを見るためにはかなり後ろに離れなければならない。生で見たい気持ち

と前で見たい気持ちがせめぎ合った結果、最前列にした。もちろんアクリル板に傷は全くなく、きれいなガラス越しで見る感じで不快というほどではない。が、残念ながら「ガラス越し」なのは間違いない。

「安全基準」や「建築法上の決まり」のためだろうから仕方がない。主催者を恨む気持ちは毛頭ない。「もしも」に備えた措置だろう。身を乗り出した観客が勢い余って落下したら観戦どころではなくなる。ただ「基準」や「法」はどこまで絶対なのか。なにか「こと」が起きるとニュースでは「安全基準に問題がなかったか調べています」とか「管理に手落ちがなかったかどうか検証しています」というコメントが出される。未成年者が犠牲になった場合は当然そのトーンは上がる。ただ管理側の責任ばかりがクローズアップされると、管理側はなにかを犠牲にしてでも責任を問われないように防衛することになる。学校であれば、すべての危険を未然に防ぐことは不可能だから「行事そのものをやめよう」となりかねない。事前の手立ては大事なことではあるが、万全を求めすぎてはいないか。誤解を恐れずにいえば「自己責任」の部分はないのかな、と思う。災害時に避難が遅れた人が行政の落ち度を訴えたり、マスコミが行政側の責任を書き立てたりすることがあるが、それだけが問題だろうか。自分で危険を察知して自分で対策を考えるのでは不十分なのだろうか。それとも各自の判断は信用できないということなのだろうか。

以前バレエを見に愛知県芸術劇場大ホールに行った。その時は３階（といっても実質２階席）の最前列をゲットできて、楽しみにしていた。ところが席に座ると木の手すりの上に追加されたとおぼしき金ぴかのパイプが視界のど真ん中をきっちり横切っていた。私は唖然とし、怒りに近い感情をもった。今回のアリーナは２階席の客ががっかりしないようにアクリル板はきれいに磨かれていた。スタッフも入念にチェックしたに違いない。怒りは感じなかったが少し悲しかった。

改修工事前のピサの斜塔には最上階を含めて手すりがなかった。「自己責任」だった。

《おまけ》

３年間マスクをつけ続けた卒業生のみなさんの素顔を私は知らない。それでなくても顔や名前を覚えられない私（教師失格か）。この先、マスクを外した私服姿のみなさんに出会っても誰だかわからないと思う。逆に生徒のみなさんは我々がわかる。だがみなさんは我々を見かけてもたいてい無言で「いつどこで〇〇先生見たよ～」で終わりだ。それはそれでいい。ただせっかく声をかけてくれたのに「はあ、どなたですか？」となったら申し訳ない。挨拶されればやはりうれしいものなので、できたら「こんにちは。武義高の〇〇です。」と名乗ってくれるとありがたい。

「春夏秋冬」を読み込んだ回文をツイッターで見かけた。見事な出来映えである。すごい。２０１９年の作品らしい。作者は学者ではなく一般の人のようだ。ここに載せたいのだが、法的な問題があるといけないので紹介に留める。各自で検索してみてほしい。かわりに、というわけではないが「いろは歌」のように４８音すべてを一度ずつ使った作品を載せる。平成７年、当時岐阜高校の教諭だった平林充郎という先生（面識はない。ごめんなさい）の文章（いろは歌に関するエッセイ風の評論文）にあったもので、なんと短歌と俳句のセットになっている。

教師了へ　あらむや家で　よろこび居　（けうしをへ　あらむやいえで　よろこびゐ）
絵船幸のせ　祝ぎ祭り行く　（えふねさちのせ　ほぎまつりゆく）

友が恩　忘れぬ春ぞ　目に涙　（ともがおん　わすれぬはるぞ　めになみだ）